

相日

ゼミナール

中国文化

王学文〔著〕

田中久幾〔訳〕

祝祭日編

カラー版



星海出版社

ゼミナール 中国文化

祝祭日編

王学文「著」

田中久幾「訳」



九州传播出版社

图书在版编目 (C I P) 数据

节日 : 日文 / 王学文编著 ; (日) 田中久几译著 .

— 北京 : 五洲传播出版社 , 2016.10

(中国文化系列 / 王岳川主编)

ISBN 978-7-5085-3410-7

I . ① 节… II . ① 王… ② 田… III . ① 节日 - 风俗习惯 - 中国 - 日文

IV . ① K892.1

中国版本图书馆 CIP 数据核字 (2016) 第 273460 号

主 编: 王岳川

出 版 人: 荆孝敏

统 筹: 付 平

中国文化·节日

著 者: 王学文

翻 译: (日) 田中久几

责任编辑: 高 磊

图片提供: 王学文 FOTOE 中新社

出版发行: 五洲传播出版社

地 址: 北京市海淀区北三环中路 31 号生产力大楼 B 座 6 层

邮 编: 100088

发行电话: 010-82005927 82007837

网 址: <http://www.cicc.org.cn> <http://www.thatsbooks.com>

印 刷: 北京浙京印刷有限公司

版 次: 2017 年 1 月第 1 版第 1 次印刷

开 本: 787×1092mm 1/16

印 张: 10

字 数: 180 千字

定 价: 108.00 元

目 次

まえがき 3

Part 1 中国の祝祭日 6



北京民間の花会

節はどこから来たのか 6

多彩な中国の祝祭日 12

祝祭日と中国文化 20

Part 2 強靱な記憶 27



端午節句の龍船競争

春節 中華の共同観念 28

端午の節句 先賢を追憶する 34

国慶節 強国夢想 39

Part 3 神聖に祀る 44



孟蘭盆会の儀式

清明節 丁寧を送り出す 44

七月十五 人と霊が共に楽しむ 50

クルパン祭 生贄の献上 55

Part 4 世俗的なお祭り騒ぎ 61



社火での民間舞踊

社火 狂喜 61

澆水節 仏像に水をかける 66

たいまつ祭り 激しく燃える 70

Part 5 生産のリズム74



縁日の花会

- 二月二日 春の龍の台頭75
- ナードム 草原に喜び集う79
- 開洋謝洋節 人と海の調和84

Part 6 社会の繋がり90



香港大坑の舞火竜

- 中秋節 月夜に集う91
- 鼓藏節 太鼓の名97
- 納頓節 祝祭日の脈略102

Part 7 生命の礼賛107



祝日を楽しむ子供たち

- 子供の日 祝祭日の妖精108
- 姉妹の日 銀飾の年113
- 重陽節 老人を敬う117

Part 8 愛の歌122



良い夫婦の縁
を請い求める

- 七夕 牛郎織姫122
- 3月3日 春心の芽生え129
- 卯節 旺盛な生命134

まとめ 新たに見つかる祝祭日とがき141

あとがき153

付録：中国歴史年代早見表157

目 次

まえがき 3

Part 1 中国の祝祭日 6



北京民間の花会

節はどこから来たのか 6

多彩な中国の祝祭日 12

祝祭日と中国文化 20

Part 2 強靱な記憶 27



端午節句の龍船競争

春節 中華の共同観念 28

端午の節句 先賢を追憶する 34

国慶節 強国夢想 39

Part 3 神聖に祀る 44



孟蘭盆会の儀式

清明節 丁寧を送り出す 44

七月十五 人と霊が共に楽しむ 50

クルパン祭 生贄の献上 55

Part 4 世俗的なお祭り騒ぎ 61



社火での民間舞踊

社火 狂喜 61

澆水節 仏像に水をかける 66

たいまつ祭り 激しく燃える 70

Part 5 生産のリズム74



縁日の花会

二月二日 春の龍の台頭75

ナードム 草原に喜び集う79

開洋謝洋節 人と海の調和84

Part 6 社会の繋がり90



香港大坑の舞火竜

中秋節 月夜に集う91

鼓藏節 太鼓の名97

納頓節 祝祭日の脈略102

Part 7 生命の礼賛107



祝日を楽しむ子供たち

子供の日 祝祭日の妖精108

姉妹の日 銀飾の年113

重陽節 老人を敬う117

Part 8 愛の歌122



良い夫婦の縁
を請い求める

七夕 牛郎織姫122

3月3日 春心の芽生え129

卯節 旺盛な生命134

まとめ 新たに見つかる祝祭日とがき141

あとがき153

付録：中国歴史年代早見表157

まえがき

「まるで祝祭日のように嬉しいよ！」

嬉しい事がある度に踊り歌っている時、人々は皆このような感嘆の声をあげる。これは祝祭日が人類にもたらす素直な感触である。

祝祭日は人類社会における一種の普遍的な文化現象なのだ。通常、祝祭日は群体性や周期性さらにその内容や格式の特殊な日時は変動しないとみなされている。農業社会や工業社会あるいは情報化社会に関わらず、祝祭日はいつもその社会に存在し、ひととき異彩を放つ。

歴史の古い伝統的な祝祭日もあるが、国家の建立や発展に伴い、創造された現代の祝祭日、政治的祝祭日、宗教的祝祭日、世俗的祝祭日もあり、ある業種に専属する祝祭日や性別や年齢に関する祝祭日もある。祭祀がテーマの祝祭日、情愛がテーマの祝祭日、楽しく集うテーマの祝祭日、人を楽しませる競技がテーマの祝祭日があり、非常に多く、さまざまである。

祝祭日の生産は「捏造」の特徴があるが、意味がなく、原因がないわけではない。私たちはいつも祝祭日を祝う大勢の人の所に、自然や地理、歴史文化、政治制度、経済方式の中から祝祭日の起源を見つけ出すことが継承していくことができる理由である。祝祭日は人類の過去を復習し、解釈と継承をしていき、表現、演繹し、維持している人類の現在、同様に人類の未来に対し、明示、鼓舞し、創立していくのである。少し考えてみれば、平均して無差別あるいは、連続して絶対的に途切れることのない時間の流れる中、もし祝祭日の文明の創造性、独特な時間間隔がなかった場合、人類の生活はどんなに味気無くつまらないものになったのだろうか？人類の生活中において、それはまもなく次々につながる真珠のようなものになり、日常生活の一つの柱であり、人類

の色とりどりで美しい人文世界を成し遂げるだろう。祝祭日が無かったら、人類は多くのバイタリティーと楽しさや喜びといった感情が不足してしまうだろう。学者の劉東所は「祝祭日が不足している生活は、文明的な生活とは言えず、祝祭日の文明を失うことは、すなわち文明を失うことである。」と言う。

中国は一つの祝祭日大国である。悠久の歴史、広大な国土と多様な生態のもとにおいて、中国各民族は豊富で多彩な祝祭日文化を創造し、伝承、発展させた。中国にはいくつの祝祭日があるのかというと正確な数字は一つもない。「大きいものは 369 個、小さいものなら毎日ある」という俗語が中国の祝祭日の多さを鮮烈に反映している。これらの祝祭日は、中国文化集中を表す舞台、そして重要な構成の部分である。神話、伝説、信仰、儀式、演劇、音楽、舞踏、飲食、工芸など中国文化の様々な因子を作り上げるうえで、祝祭日と切っても切り離せないものである。それらは中華民族の歴史の記憶、文化創造、社会機制と生活趣向を支えた。祝祭日の中から、人々は見たいと感じる欲を満足させ、集団のアイデンティティーを強化し、次々に増える個体の群を実現し、精神を落ち着かせて心を慰謝することを探求した。

現代に入って以来、中国の祝祭日の系統と現状は飛ぶように早く発展し、激烈に中国社会を変えていき、未曾有の複雑性と多様性を表現した。一方では「これ以上祝祭日はない」「祝日を過ごすことに意味はない」という不平が絶え間なく続き、一方では、祝祭日の名の「祝日」を次から次へと標榜し、見聞において詰め込んだ。伝統的な祝祭日、例えば春節、端午の節句、中秋及び一部の少数民族の祝祭日は、すぐさま中国発展の文脈下で加えてさらに発展させ輝かしいものになったが、しかし祝祭日の精神と内容は今まさに形を変えている最中である。その上、一部の伝統的な祝祭日は、巳祭、社日は以上のようにかえって次第に委縮させるさまざまな原因となり、さらには古い書籍や資料の山の中の記憶あるいは、心の中の記憶に隠れ、現実の生活中において、形跡がなくなってし

まった。五四青年祭、六一子供の日、国慶節などの祝祭日は、現代民族国家発展の過程の中の産物であるが、しかし既に深く深くと今の中国人の中の時間体系に嵌入し、国民は既にこれら「新しい祝祭日」に期待し、楽しく過ごすことが習慣になっている。クリスマス、バレンタインデーなどの西洋の祝祭日は、中国の若者の中で重要な日である。世間の人の前に現れるのは、このような一つの伝統と現代、世界と国家、民族と地域、神聖と世俗が入り混じってなる祝日の系統を織りなす。歳月の輪廻の中において、生命の過程の中において、これらの祝祭日は中国人のありふれた生活中的の非常に重要な時間となり、息抜きに限度がある中国人の生活を構築する。

『中国文化・祝祭日編』は一度、中国の祝祭日に対し、深みがない観察をすること。私たちは多くの祝祭日の中から21個の祝祭日を選出し、そして祝祭日の内側にある精神を出発点にして、強靱な記憶、神聖な祭り、世俗的なお祭り騒ぎ、生産のリズムなどに分け、7個のテーマを書き進めていく。歴史を遡るのと同時に、現状の発展を示すことに力を入れ、中国の祝祭日の進行時、読者がその様子を思い浮かべることができることを願う。当然、祝祭日の通常テーマは総合性であり、結合の特徴を有していることである。ある祝祭日のテーマは単に祭祀のテーマがあるだけでなく、娯楽などのその他のテーマに楽しく集うというテーマもある。よってこのテーマ分類は書き進めていくために便利で、より一層、この祝祭日にある一方の特徴を書き出すのである。

中国の祝祭日

祝祭日は異なる群衆が各自の運勢に依存するため、時間の流れるうえの特殊な人文の含蓄を自然にもたらす。各国家の祝祭日は全てこの国家と大衆の歴史的伝統に緊密に関連しあい、独特な認知と行動方式を体現し、独特な人文価値を有している。中国の祝祭日を理解し、それを中国の歴史文化の脈絡と発展の情景の中に置いていく。

節はどこから来たのか

節、繁体字で「節」と書き、中国の部首別漢字辞典では、部首は竹である。竹は新芽から始まり、脱皮のような作用で長く成長していく。中華民族の祖先は竹の脱皮のような働きで一定の法則でどんどん背が高くなる仕組みを発見し、そこで節と呼んだ。竹の節の区分はこの様に竹の一定のリズム法則によって成長し、さらにそれは楽器、礼節、品性と徳性、哲学にも派生され、例えば『爾雅・釈樂（中国最古の辞書）』では「楽しさを考える節」と呼び、『周易（占術）』では専門的な「節の八卦」がある。「節」自身の意義は、祝祭日は中国人の時間体系のうえの設定の一つの隔たりであると表している。



中国西南地区の生態と稲作農業（撮影：王学文）

貴州省黎坪侗寨の中の
風雨橋（撮影：王学文）



この間隔点の設定はみだりに決められたものではない。それはまず初めに、中国の四季に基づいて建てられたものである。古代中国人は自然の変化の規則に基づき、時間を区切って、人文の標識を進め、次第に生産的生活の一塊の時間システムを導いて抽出した一四季。漢時代（紀元前 206 ～紀元 220）、中国は四季八節二十四節気の完全な四季システムを形成した：一年は四季に分けられ、四季は八節に分けられ、一つの節は三節気に分けられた。四季は春、夏、秋、冬の 4 つであり、八節は日が最も短い夏至、日が最も長い冬至、昼夜等しい長さの春分と秋分、天気が暖かく、より暑くなり始める立春や立夏、天気が涼しく、より寒くなり始める立冬や立秋。二十四節気は節気の歌謡をもって、ことわざの形式を民衆のために身につけさせた。

チベット仏教の仏像（撮影：王学文）



二十四節気の詩

春の雨は春の澄んだ谷と空を驚かせ、
ススキは夏の暑さにつながっている。
秋に露の秋の寒霜が降り、
雪は冬の小さな大寒、
上半年は六二一、下半年八二三。
毎月ふたつの祝祭日が規定され、
最も多くてもたった1, 2日の差である。

古代中国はこの四季の時間制度に依存し、人と自然や人と社会の關係に協調している。当然、この四季の制度は一種の時間の注釈体系にとどまらず、さらに神の権力、贈り物の権力、政権の実現の手段であった。統治者は暦法や祭祀儀式などの「敬授民時」の教えを通じて、民衆の四季生活を統治、管掌、引率する。四季性のある祝祭日は、上もやれば下も真似るというやり方で行われた。例えば立春の日、天子は多くの役人を京城の東の郊外まで率いて春を迎え、「春の神」とされるススキの神と春の牛を迎える。これは戦国時代（紀元前 475 ～紀元前 221）から清時代（1616 ～ 1911）までずっと一つの公式の礼儀とされ、全国



台湾雲林県西螺鎮の媽祖廟の平安の明かりを高くかけて春を迎える日。

で施行されていた。現在でも、中国国民の間では「接春」、「立春」の習わしがまだある。文献記録に基づき、これらの節気は当時、すべて祭祀の儀式や内容の段取りはあったものの、しかし注意する価値があり、さらに節気はみな全て発展し、あとに祝祭日と呼ばれるものになったわけではない。今日、私たちが見かけるものは今もなお祝祭日の節気のために清明と冬至がある。

漢魏の時代、一般認識は、社会の政治経済の文化の状況の変化にともなって、伝統の季節の祭りの儀式は次第に世俗の四季祝祭日へと移り変わり、神権と政権の統治階層主導は民間社会に自発的な賛同と受容をさせ、中国 2,000 年余りの四季祭日の基本形成に影響を与えた²。見落としていけないことは、四季八節二十四節気の四季制度の他、中国のいくつかの少数民族は独自の時間暦法を持っている。彼らの祝祭日は漢族の主体的な暦法の影響を受けてはいるが、しかし依然として彼ら独自の暦法システムと密接に関係している。チベット族の祝祭日はチベット暦によって定められている。中国西南地区に住む水族は水暦を持ち、水族のふたつの重要な祝祭日、端午の節句と卯節の時期は水暦をもってして決まっている。

祝祭日は四季のシステムから生み出されるが、しかし後に多くの祝祭日の出現と発展を経てむしろ四季制度から離れてしまうと言える。たとえば四季制度からつくられた多くの祝祭日でも、後世の発展中においても絶え間なく他の動力支持、増加、訂正、祝祭日の起源の代替、発展、祝祭日内容の形成と変化する人文の解釈を探している。自然のリズムは人文のリズム、社会のリズムになった。

顕著な現象のひとつは歴史化、地域性の神話伝説は一般的な解釈により、祝祭日になったことである。端午の節句は古代の民衆が、春が夏に移り変わる時期に対し、病気の流行する「悪しき 5 月」と関係があると思われ、後世は次第に屈原（いくつかの場所では伍子胥、介子推）を記念し追憶した。龍船競争は汨羅江に沈む屈原の身体を魚が食べてしまわ



七夕と人々の星に対する認識に関係している。図：河南南陽漢画館に収められている東漢の画像石。画像石の右端に牧童が鞭を持ち一頭の牛を連れて、振り返っている、牛飼いである。牛飼いの上の方に3つ星が繋がる「ひこ星」がある。画像左下の角に4つの星が家状に繋がっていて、中で座っているのが織り姫である。

ないようにと行われた。また貴州清水江流域の苗族は依然として、もし悪龍の伝説に降服し、龍船競争をした場合、作物にとって天候が順調で、豊作になるだろうと考えた。このような解釈は地域と群衆の歴史の文化伝統であり、現地の自然状態と密接に関係し、富を有す場所の特徴である。当然、現代の教育とマスメディアの影響にともない、端午の節句は屈原の教えを祀ってさらに盛んに行われるだろう。

宗教と神聖な叙事は祝祭日の別のひとつの重要な根源である。中国にはイスラム教を信仰する10の民族がいて、彼ら民族の祝祭日は多くがイスラム暦と《コーラン》が元になっている。開齋節はイスラム教暦で10月1日にある。イスラム教法の規定によると、イスラム教暦の毎年9月はラマダンのために、成人の健康なムスリムは一か月の間毎日、日

没まで飲食や夫婦の営みなどを禁止している。ラマダンが終わった後、一か月の成功を祝うため、人々はモスクに出向く。クルパン祭（犠牲祭）の時期は、イスラム教暦は12月10日で、アッラーのためにとイブラヒム父子の犠牲の精神をもって記念している。旧暦の4月8日は仏教の仏誕祭で、釈迦の誕生を記念している。雪頓節はチベット仏教との関係が密接で、仏教の展開をもって発端した。地方社会では、ある俗信がもとになって、祭祀をもって、ある地域の神あるいは形成的な縁日の祝祭日はさらに普遍なものになった。媽祖を例にして、中国東南沿海を中心に、東アジア（琉球、日本、韓国及び東南アジア）を含む海洋地区の媽祖の信仰圏のなかで、全部で1,000以上の媽祖廟がある。

いくつかの祝祭日の誕生と重大な政治事件、社会事件は関係ある。比較的典型的な現代民族国家の建立のような重要な時、あるいは設立の祝祭日、即ち国慶節である。「国際メーデー」は1889年7月エンゲルス率いる第二インターナショナルがパリの代表大会で定め、全世界の労働者共通の祝祭日である。1949年12月、中国は5月1日を法定による労働節とした。シボ族西遷節とは、清朝時代、シボ族が国境警備を任されたことを記念し、毎年、旧暦4月18日にあり、身内を偲び、祖先の国境警備の業績を記念して祝う。

祝祭日の様々な根源は不思議ではない。人類の生存は過程、それは人自身、人と人、人と社会、人と国家、人と自然関係の発展であり、絶え間ない協調の過程である。祝祭日は、一種の文化的創設の成果であり、自然な経路で地理的、宗教的、政治的、経済的ある種の生産方式に関わらず、このような協調の産物のためにすべてに属することができる。「文明の先駆者たちがこの重大な領域中において、この世界の基本を築きあげ、自発的に人生の生き方を選んだ人たちの全体の雰囲気を守り、育てられたのだ。」³ 研究者は文献、文物の中から祝祭日の起源の比較的気になった手がかりを探し、民衆は祝祭日をどのように過ごすのかをより気にかける。

多彩な中国の祝祭日

中国はひとつの祝祭日大国である。しかし中国には幾つの祝祭日があるのか、とても難しいがひとつの正確な答えがある。今に至るまでに私たちはまだ全面調査は行っていない。当然、私たちはひとつの厳格な定義を祝祭日に与えていないことに関係があり、違う人は祝祭日に対し、内包と外延が完全に一致しない。《中国民族祝祭日大全》一冊の本の祝祭日の定義は非常に広範であり、祝典、縁日、祭会、歌会などを合わせて現代の祝祭日に入れた。この本は民族が共に記録した 1,592 個の祝祭日を区別し、そのうち 69 個チベット祝祭日、107 個の苗族祝祭日を含んでいる他には、たった今進行しているひとつの国家級の文化典籍性の工程《中国祝祭日誌》の状況からみて、依然として活発な民間、社会において影響、規模が比較的大きい祝祭日は少なく見積もってもだいたい 300 程ある。祝祭日の数量の統計は、中国の祝祭日の豊富性と多様性を反映している。

祝祭日はひとつの総合的な文化事項であり、とても難しいがあるただ一つの性質に基づいてそれらを分類している。清明節を例にすると、清明は二十四節気のうちのひとつで、農作業の祝祭日として分類できるが、しかし墓参りによって祖先をまつる祝祭日の内容はまた、その祭祀的な祝祭日として分類でき、郊外へピクニックに行くという内容の祝祭日もまた娯楽性の祝祭日にも分類できる——どの一類に属するかはすべて道理がある。そのため、私たちは祝祭日に対し概念を詳細に分析することはできないのだ。世界各地の祝祭日の文化が同じであるように、中国の祝祭日の文化も周期性、記念性、民族性、地域性、複合性の特性を持つ。祝祭日のこれらの特性は違う地域、群衆、歴史文化の伝統の中で異なった表現方法を持っていて、これもこの広大な世界で「和而不同」の魅力